

2017 韓国 U20 ワールドカップ視察レポート (5.19-23 6試合)

報告者：池谷 孝 (清水エスパルス)



■はじめに…Journey to discover , and prove

サッカーを教える指導者として、選手やチームを伸ばすために自ら答えを発見する、そして時間をかけてその発見の価値や正しさを証明していく。発見したことを文字化言語化して共有する。PDCAを廻していく。マーケティングとイノベーションを繰り返す。数値化して期限を設ける。逆算の発想からの積算。小さな結果を出していく。サッカーの楽しさを伝える。選手を育てチームを勝たせる。次代のあたらしい指導者を育てる。これらは指導者自身の主体性やぶれない信念、本質を見抜く力が試されるプロセスだ。そして年齢、キャリアに関係なく指導者を志す誰もがチャレンジできる道程だ。

「船は港にいる時が最も安全であるがそれは船が造られた目的ではない」、「障子を開けよ、外は広いぞ」、「若いときに旅をせねば老いての物語がない」。知ることは楽しい、指導者という人種は、安定、安心の暮らしから抜け出て時々もしくは度々外に出ていかないとならないと思う。発見の旅であり、世界レベルの大会、歴史あるサッカーの本場、フットボールの国への旅である。導き出した自己の答えの正しさを実証する日々の旅である。

■ラウンド 16 に進んだチームの内9チームを視察分析。主たるスタイルは①シンプルに背後を狙う②ギャップでボールを廻しながら③前線選手による突破(カウンター)であった。

■ベネズエラ(4:2:3:1) 2-0 ドイツ(4:2:3:1)

1) 狙い

ベネズエラ…守り組と攻め組、カウンターで生きる個の突破力
ドイツ…ワイドなポジショニング、広く攻める

2) テクニック

止める、渡す、コンタクトから奪う、シュートを意識した運び、守備の連動、シュート
トライアングル+個人技術
得点した後の守備の覚醒、集中力アップ

3) play concept& issue

仕掛ける個がいて守りに強い個の存在+パスワーク
前に向かってテンポよく効果的にパスをつないでいく
守り方を知っているチームが先制点を奪うと簡単ではない
トライアングルが作れない状態ではボールを失う
センターバックの少なくとも1人は物凄く落ち着いている
相手の近くにいるとファーストタッチのミスを狙える
個×11>チームプレー

■バヌアツ (5:2:2:1) 2-3 メキシコ (4:4:2)

1) 狙い

バヌアツ…前線にすばやくフィード、前線の3人の個人技でシュートに持ち込む
メキシコ…ポジションの規律が明確。サイドからの徹底した崩し。

攻撃時はSBが張出し2:4:4

2) テクニック

走る、とにかく走る、繰り返して走る

自由にボールを扱う

スピードに乗った中、相手プレスの中でのテクニック、姿勢、視野確保

クロスの質

ロングパスの精度

走る味方の前方へのパス・後方へのパスミスなし

コンタクト

3) play concept & issue

相手の守備の状況を見て攻撃を選択…フリーラン・速攻、ポゼッションからの崩し

相手の裏を狙って走る+ロングボールをフィード+クロス

スピードに乗って仕掛ける、迷わずゴールに仕掛ける

すばやい最適なポジション取り

サイドアタッカーの相手に並ぶ個人戦術とフリーラン

前を向いてプレー、パススピード・強いパス、速い動き、体をぶつける

クロス…相手背後にスペースがあればアーリークロス、なければラインまで運ぶ

プレーに時間がかかると囲んで奪う

ミスを見逃さない寄せと守備

集中して全力でプレー、手抜きなし

初動(1stステップ)の速さ。奪われた後の切换の速さ

■日本(4:4:2) 2-1 南アフリカ(4:1:4:1)

1) 狙い

日本…ボールを保持したいサッカー。時間をかけて攻撃する。寄せきれない守備

…味方がボールを持っている時前線が相手の裏を取れないポジショニング、
ボールを失わない可能性は高いが突破の可能性は低い

南アフリカ…シンプルにパスをつないで前に運ぶ。高い位置で奪うと一気に仕掛ける

2) テクニック

緩いパス

ギャップで受けるプレー

ゴール前での一気の仕掛け

3) play concept & issue

ギャップで受ける、サポート、連続

カットインしてスルーパス、もしくはクロス

フィジカルをカバーする足元の技術

トップスピードの中で果たして技術があるかわからない

■イタリア(4:4:2) 0-2 ウルグアイ(4:1:4:1)

1) 狙い

イタリア…個々のフィジカルを生かしバランスよく攻める

ウルグアイ…相手を見ながら前にプレーする、前に速い時とポゼッション

2) テクニック

キックの精度

ボールを守る

パススピード、シャープさ

初動…1st ステップのすばやさ

個々のプレースピード

姿勢、プレースタイルの美しさ

3) play concept& issue

前への速いプレーを意図しながらも相手の守備の状況に合わせた攻撃の選択

シンプルに前に進むサッカー

180cm 以上の選手

■エクアドル(4:4:2) 3-3 アメリカ(4:4:2)

1) 狙い

エクアドル…7人守備 4人攻撃。身体能力を生かすサッカー。攻撃時 4:2:4 の3ライン

アメリカ…パスをつなぎつつ相手のすきを突くシンプルなサッカー。攻撃時 2:3:2:3

2) テクニック

ワンツーパス

仕掛ける技術

3) play concept& issue

ボールが出るタイミングで相手の背後に走る

パスワーク+個人の突破

サイドアタッカー、シューター、守る個

■サウジアラビア(4:2:3:1) 0-2 セネガル(4:2:3:1)

1) 狙い

サウジアラビア…集中した守備からサイド突破。強いパスに対する技術のミス

セネガル…高い身体能力。幅を使った攻撃と縦へのシンプルでダイナミックな突破

2) テクニック

スピード、プレッシャー、視野確保が十分でない状況下でのミスの多さ

3) play concept& issue

練習で身に着いたテクニクではなくサッカーをして身に着いたテクニク

スピード、インテンシティ、ゴールに向かう力強さとスピードにおける育成環境差異

身体能力の高い選手、チームと戦う時のテクニク、戦術、賢さ

サッカー感、どうやって攻めどうやって守るかというフィーリングのマッチ

Athletic > Technical

■サッカー指導のための ISSUE

チーム構築のユニークさを大切に

…同じサッカースタイルでは実力別に結果が出てしまう。基礎基本の土台の上にオリジナルでユニークなチームをつくる。また、多様なチームの存在がサッカーを強める

シンプルにすばやくゴールに向かう、前にプレーする

…サッカーの基本であり世界のスタンダード。シンプル、スピード、効果的に。前を向い

てボールを受けること、ゴールにすばやく向かう、前を向いてボールを受けさせるパス、前を向けない時はシンプルに味方を使う、迷わず仕掛ける、奪い返すプレーがセットになっている

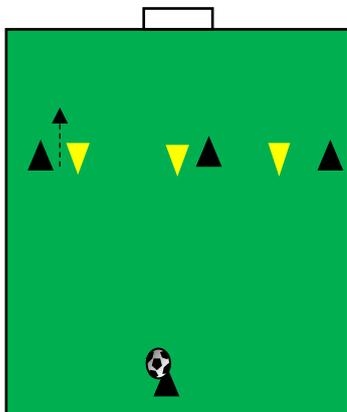
狙い：相手の守備の状況によって攻撃のプレーを選択する…相手と相手守備の観察

…ボール保持者が前を向いてプレーしようとする瞬間、相手守備が十分な準備ができていなければ相手守備ラインに並んで裏を狙って全力で走り蹴る。(図①) 相手の守備の準備が十分であればギャップを使いながらボールを廻して相手守備のバランスが崩れた隙間をつく。(図②)

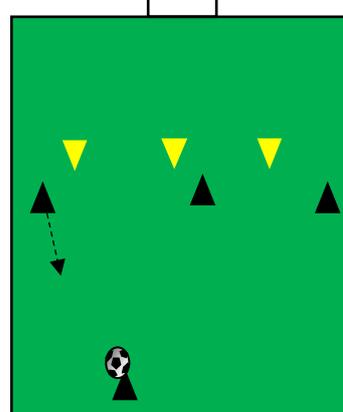
相手背後への速い攻めは多くボールを失うが何回かの決定的チャンスも生み出す。突破のためにはサイドのフリーランとスピードを生かした(迷わない)仕掛けとクロスが有効である。そして奪われて奪い返した瞬間がビッグチャンスであることを考えるとは突破する味方の近くにいることがそのことを可能にする。

一方、相手より数歩下がってボールを受けようとするポジショニングはボールを失うリスクは低くボールを廻しながら攻撃できるが、テクニックが不十分であれば整った守備の相手から決定的チャンスを生み出すことは簡単でなく、奪われてカウンターを受ける可能性も出てくる。どちらが有効かという比較論でなくあくまでボールを奪った後の相手の位置と相手守備の状況が攻撃の選択(ダイレクトプレー、ポゼッションからの崩し)の基準となる。

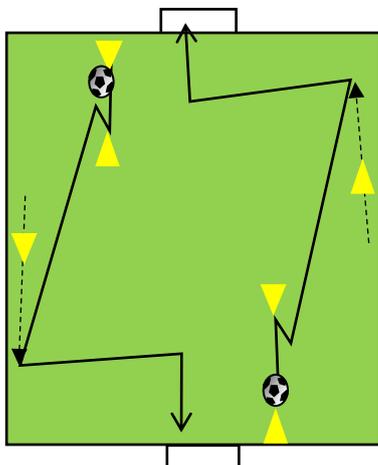
リスクチャレンジし決定機はつくるが多く奪われる攻め方(前線の立ち位置)、ボールを奪われるリスクは少ないが相手守備の裏で決定機を作ることが容易でない攻め方(前線の立ち位置)、そのどちらにも必要なのはピッチ上の状況の観察力と決断力、正しいポジショニング、パスのスピードと精度、ランニングの質量である。



図①



図②



課題解決のトレーニング

狙い:突破

背後へのフリーラン、ワンツーもしくはターンからのパス、クロス、フィニッシュ

原則:

Accuracy, Tempo, Moment, Direction, finish /精度、スピード(フリーラン・パス)、タイミング、ゴールに向かう、フィニッシュ

先制点を奪う

…先制点がゲーム支配の原点。先制点を奪えば守備の集中力が高まる

シュートフィニッシュ

…シュートを打てば何かが起こる。守備の良い準備はシュートで終わること

動きながら、スピードに乗った状態でのテクニック

…accuracy (精度)、tempo (スピード)、moment (タイミング)、direction (ゴールへ)。よい姿勢でプレーすることが基本。スペースで人とボールが動く (日本) サッカーの追求

トライアングル

…ボールを奪い返してチャンスを生み出すには奪われた味方の近くに味方がいること

サイドから相手の背後を突破しマイナスボールを上げる

…もっとも守備しづらい状況、シュートをしやすい状況をつくる

バイタルエリアで迷わず仕掛ける

…躊躇しない、スピードに乗る、奪われることを恐れない、仕掛け切る精神、シュートフィニッシュ。ドリブル (運ぶ、かわす、抜く) 突破

体をぶつけてボールを奪う

…もっともシンプルで理解しやすい表現だと思う

狙いをもった攻撃と守備

…狙い > 戦術。分析 → ゲーム戦術。(ベース → チーム戦術。文化・歴史 → 国のサッカー)

TR も試合も競争

…サッカーは HUNT、ずるがしこさ、観察、テクニック、勝負本能が必要。競争の要素 (競争性) が TR のオーガナイズには絶対必要

選手の育て方

…見つける (発掘)、育てる、観せる・売るというプロセスの中で。テクニック、強み、主体性を育てる。General から specific なプレーヤーへ。何でもできる選手から強みを生かしたポジションのスペシャリストに行きつく道

■終わりに

前半致命的かつ稚拙なミスを繰り返し強豪メキシコに 2 点を献上し精神的にメタメタになったバヌアツの GK がなぜそれ以降自信を取り戻したのか？、なぜバヌアツは 2 点のビハインドを追いついたのか？、なぜメキシコは終了間際にバヌアツを突き放したのか？、なぜメキシコの左サイドのアタッカーは格下の相手に対し足がつるまで走ったのか？、なぜウルグアイは得点后イタリアの攻撃をかわしながら追加点を奪ったのか？、なぜベネズエラは強豪ドイツに勝ちきったのか？、なぜ日本は南アフリカとイタリアに対し早々に失点したのか？、なぜ多くの実力国はシンプルに守備の背後を狙うのか？…。「なぜ」は観客席から直接観たグラウンドに多く落ちている。リアルに生で観て想像力を刺激する時間の価値をいつも感じる。

そして、「なぜ」に対するそれらの答えはあくまで私の想像でしかない。バヌアツの GK のメンタリティの回復は監督がその連続したミスを受け入れ GK を励まし続けたからではないか？！、バヌアツが 2 点差を追いつきそれをメキシコが突き放したのは両チームの全員が決して勝利をあきらめない勝負本能を持っていたからではないか？！、足がつるまで走ったメキシコのサイドアタッカーはスカウトに認められヨーロッパでプレーする野心があったからではないか？！、南米のウルグアイは相手とゲームを読み賢くプレーすることに歴史的に長けているのではないか？！、強豪ドイツに対してベネズエラの勝利は先制点が自信をもらしたのではないか？！、日本の失点は自分たちのサッカーをやるようとする意識が強く相手のサッカーを壊す意識が弱かったのではないか？！…

しかし、その理由を探することは実はあまり意味がない。「なぜ」から出発点して、選手のやる気や自信を呼び覚ます指導者の態度や心理処方、勝負本能や競争本能を刺激する練習、最後まで走り続ける選手の育成、ゲームと相手を読むことの習慣化、先制点を取ることを理解したチームづくり、自分たちのサッカーをすることと相手のサッカーを壊すサッカーを融合させた指導などに昇華して自分の選手やチームに落とし込み彼らを成長させていくことこそ指導者の仕事だとあらためて感じる。

そして、サッカーの問題は大局的にはピッチ上の指導にとどまらず、哲学、ビジョン、目標、組織、運営、財務、人事、スカウティング、科学、統計、分析や、心理学、運動学、体力学、生理学、医学、脳神経学、発育発達、健康、栄養、コンディショニング、スケジューリングなどの多角的な観点から論理的に、個人的かつ組織的に力を合わせて解決すべきだと強く思う。サッカーはシンプルなスポーツだけれどつくづく複雑なものであるとも思う。

